

第7分科会

特別支援教育における指導、支援およびツール

加藤 美朗先生（関西福祉大学 教育学部 教育学科）

まず、初めに自分のことを話され、そのあと参加者全員がそれぞれの学校で困っていることや知りたいことを発言し、それらの内容もふまえての講演になった。

最初に「障害者とは」というところから始まりました。一般的な定義は、「障害及び社会的障壁により継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける状態にある」ということで、社会的障壁（制度、情報環境、就労環境、意識などのバリア）を除去することで視覚障害者であるが、精神科医になった A さんの話をしてくださった。

次に障害者施策として 2005 年に発達障害支援法が施行され、この頃から特別支援学級や通級による指導が増加し始めた。2011 年には障害者基本法が改正され、2012 年にはインクルーシブ教育、特別支援教育の推進、中教審の合理的配慮、そして、2016 年は合理的配慮不提供の禁止など変化してきている。

そして、個別支援計画のことについて話してくださいました。常にスモールステップを目標に授業づくりをしていくと良いということで、例えば〇〇ができないというのが、人の支援によって手を添えればできる。次に物の支援によって手順書を見ながらできる。また、人の支援で声をかければできる。そして最終的に〇〇が一人でできるというふうにするとうまい。また、行動問題への介入では、××を繰り返す→××よりマシな行動→〇〇に少し近い行動→〇〇にかなり近い行動→××のかわりに〇〇ができる、などスモールステップができるように配慮や支援をしていくと良い。

最後に TEACCH（自閉症の支援者を対象とする専門家を対象とした包括プログラム）について話された。目的は、自閉症スペクトラムの人たちが、社会の中で有意義に暮らし、できるだけ自立した行動がおくれるように支援すること。哲学と理念は認知理論と行動理論を重視する。スキルを伸ばすと同意に弱点を受け入れる。ドロップス、PECS、トーキングエイド、コミック会話とソーシャルストーリーなど、色々と教えてもらった。

